

在日大韓基督教会
宣教100～110周年標語
감사의 백년, 희망의 백년
感謝の百年、希望の百年
(데살로니가전서 5:18)

福音新聞

THE GOSPEL NEWS

4月1日(木) <2010年> 第685号
発行所 福音新聞社
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
電話 03(3202)5398 番
発行人 崔 榮信・編集人 洪性完
毎月1回1日発行 購読料1部100円
昭和38年9月20日 第3種郵便物認可
印刷所・青丘文化社
Tel.047-495-2555 Fax.047-432-7912

復活のメッセー



復活のイエスの平和

全聖

三(布施教会牧師)

ヨハネ20:19~23

復活をされたイエス・キリストが弟子たちに最初に語られた御言葉は、「あなたがたに平和があるように」とであった。それも繰り返して語ってくださった(19・21節)。ここにキリストの弟子たちへの、また私たちへの熱い思いが込められている。十字架で産みの苦しみを味わったイエスが、勝利を取られた「イエスの平和」が皆様に溢れるようにと御言葉を下さった。

1、恐れの中に

弟子たちは恐れの中にあった。内面的に命の君であるイエスを失ったこと、それもそのお方を全員が裏切ってしまったこと、弱さを知ってしまった直後である。さらに外面的に、ユダヤ人が今度自分たちを捕らえに来るに違いないとの思いにとらわれていたのである。だから彼らは少しの平安を得ようと戸の鍵をかけて息を殺していた。

2、勝利者の傷跡

人間は常に恐れにさらされる。過去の罪が私たちに平安を奪い、生きることに、病むこと、老いることの現実的な問題で苦しみに目に見えない未来の問題に、対して思い煩う。これらの恐れから解放されることは、出来ぬのか。しかし神が下さった聖書は、出来ると明言するのです。ヨハネの手紙に「愛は恐れを締め出す。完全な愛は恐れを締め出す。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです(4:18)」と記されています。

復活したイエスは弟子たちに「あなたがたに平和があるように」と語りかけた。平和があるように(1コリント15:55、57)。

後、すぐに手とわき腹を見せられました。数日前、イエスは弟子たちの足を洗いました。その時には手に「傷」はなかったのです。イエスの語る御言葉には行いが伴っているのです。うわべだけの言葉ではなく、あなたがたの平安をあたえるためにこの傷があるのだと教えられるのです。

かつて神様はイザヤという預言者を通してご自身の愛を披露しました。「女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか。母親が自分の産んだ子を憐れまないであろうか。たとえ、女たちが忘れるようにも、わたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける。あなたの城壁は常にわたしの前にある(49:15、16)。

イエスの愛はまさに天の父なる神様の愛です。その愛を持って、恐れを抱いてしまった我らの内にイエスは臨んで下さり、どんな恐れをも締め出してください。イエスは「わき腹」を見せられるのです。そこから、血と水が流れ出したところ(ヨハネ19:34)。彼は完全なる死を味わったけれど、その死に対して大勝利を取め、死の恐れだけではなく、死を、その根本から取り去って弟子たちに、そして私たちにも「あなたがたに平和があるように」と宣うことができるのです(1コリント15:55、57)。

復活の主から御言葉をいただき、その大きな愛と祝福を得た弟子たちは溢れるほどの出来事、喜びに溢れた。その弟子たちにイエスは「この世への派遣を命じる。かつてイエスは最初に弟子の72人を遣わすときに、この家に入ら、また、この家に平和があるように」と言いました。

2月12、13日に全国青年協議会(以下、全協)による「第10回青年のための研修会」が名古屋教会で開催された。42名の青年が全国から集まり、とても良い交わりを持った。

開会礼拝では、金必順牧師により「イエスの光に照らされて」という心に響くメッセージがなされた。その後、金済宇代表委員(川崎教会)より、主題見解が読み上げられた。



全協第10回青年研を主催する名古屋教会の青年たち。

2009年度の全協の主題は「キリスト者の愛の実践」。副題「心を尽くし、精進を尽くし、思いを尽くし」である。その後、5、6人の分団に分かれ、話し合う時間を持ち、そこからまた青年一人ひとりの思いをシェアしていった。その後の交流会ではゲームを行い、青年同士の熱い戦いを繰り広げ、そして晩餐会を行い、初日を終えた。

二日目は、講師である梶原寿先生(日本M・L・キング研究会)から、「キリスト者の愛の実践―宝の発見の喜び」という講演があった。

講演では、M・L・キング牧師の話を中心に初代の黒人大統領が生まれるまでの40年の歴史背景などが語られた。その後は、ま

た分団に分かれてシェアし、昼食は今年も、名古屋教会の女性会員が奉仕し、皆が「おいしいご飯」と感動しながら感謝した。分団発表ではそれぞれの思い・気持ちを発表し、中には寸劇をした分団もあった。

閉会礼拝では、金智一牧師によりメッセージがなされ、恵みに満ちた一日の青年研を終えた。ある青年の「これからもどうか主がともにあり、多くの恵みを与えてください。また、いつも支えてくださる多くの教会信徒の方々に、本当に感謝いたします。どうか、これからも私たち青年を時に厳しく、時に愛をもって支援してください」という言葉を主にゆだね、感謝し、お祈りいたします。アーメン」という祈りが心に残る研修会だった。

(報告・白勝和)

全協第10回青年研を開催する梶原寿氏講師に、キリスト者の愛の実践について学ぶ。

2月12、13日に全国青年協議会(以下、全協)による「第10回青年のための研修会」が名古屋教会で開催された。42名の青年が全国から集まり、とても良い交わりを持った。

開会礼拝では、金必順牧師により「イエスの光に照らされて」という心に響くメッセージがなされた。その後、金済宇代表委員(川崎教会)より、主題見解が読み上げられた。

2009年度の全協の主題は「キリスト者の愛の実践」。副題「心を尽くし、精進を尽くし、思いを尽くし」である。その後、5、6人の分団に分かれ、話し合う時間を持ち、そこからまた青年一人ひとりの思いをシェアしていった。その後の交流会ではゲームを行い、青年同士の熱い戦いを繰り広げ、そして晩餐会を行い、初日を終えた。

二日目は、講師である梶原寿先生(日本M・L・キング研究会)から、「キリスト者の愛の実践―宝の発見の喜び」という講演があった。

講演では、M・L・キング牧師の話を中心に初代の黒人大統領が生まれるまでの40年の歴史背景などが語られた。その後は、ま

た分団に分かれてシェアし、昼食は今年も、名古屋教会の女性会員が奉仕し、皆が「おいしいご飯」と感動しながら感謝した。分団発表ではそれぞれの思い・気持ちを発表し、中には寸劇をした分団もあった。

閉会礼拝では、金智一牧師によりメッセージがなされ、恵みに満ちた一日の青年研を終えた。ある青年の「これからもどうか主がともにあり、多くの恵みを与えてください。また、いつも支えてくださる多くの教会信徒の方々に、本当に感謝いたします。どうか、これからも私たち青年を時に厳しく、時に愛をもって支援してください」という言葉を主にゆだね、感謝し、お祈りいたします。アーメン」という祈りが心に残る研修会だった。

(報告・白勝和)

総会Home Page 새롭게 단장

지난 3월 3일부터 총회 홈페이지가 새롭게 단장되었습니다. 일본어 시스템에서 검색을 하면 일본어 홈이 나오고, 한국어 시스템에서 검색을 하면 한국어 홈이 나옵니다. 각 교회의 전도와 총회의 발전을 위하여 많은 이용을 부탁드립니다. 현재, 한국어를 준비 중에 있습니다.

<총회新ホームページ利用法>
韓国語検索: <http://kr.kccj.jp/>
日本語検索: <http://kccj.jp/>

<専用mail 住所>
* 総会事務局: info@kccj.jp
* 福音新聞: fukuinshinbun@kccj.jp

港国際法律事務所

横浜市西区北幸2-3-19 日経第8ビル4階
1人で悩まずに、ご相談下さい。

代表弁護士 玄 君先 (横浜弁護士会) 弁護士12名
東京大学法学部卒

※業務内容
1) 企業法務
● M&A
● 企業買収
● 事業再生
2) 個人法務
● 債務整理
● 相続・離婚
● 金融被害

横浜駅西口徒歩5分
ハマホール1Fアスモ

〒220-0004 横浜市西区北幸2-3-19
TEL: 045-628-9311
FAX: 045-311-8544
URL: www.minatolaw.biz/

まずはお気軽に
お問合せ下さい 0120-980-428

不動産管理 アルカンシエル名駅

李 光 世 (名古屋教会 長老)

〒453-0013 名古屋市中村区亀島2-2-27
電話・FAX 052-451-7713
携帯 090-3578-7571
E-mail: kwangse.lee@nifty.com

株式会社 ニューキング 愛

取締役社長 李 鍾 善 (名古屋教会 長老)

ニューキング 四日市市野田1丁目965-1
TEL (0593) 31-4771(代)

三 愛 岡崎市大和町字荒田14-1
TEL (0564) 31-8893(代)

歴史コラム⑧

宣教80周年期

「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」

李 清 一 (歴史編集委員会)



“우리에게 새 힘을 주시는 예수 그리스도”

日時：1988年10月15日(土)午後2時～5時
場所：大阪市中之島 中央公会堂

在日大韓基督教會

写真：宣教80周年記念大会の
プログラムパンフレット

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。

②在日同胞の苦難に参与する教会として、神と同胞の前に立つていくことを自覚し、仕える者の使命を果たす。

③世代交代が進行していることを直視し、教会構成員が多様化していく現実を考慮し、在日同胞教会共同体の主体性を確立する。

④来る90周年に向けて自立した100教会が設立される。

⑤宣教90周年に向けて、3世代と4世代のための宣教的使命の重要性を認識し、これに適応することが出来る働き人を優先的に養成する。

⑥今後も継続して神の国を志向するエキュメニカル運動の隊列に世界教会と共に参与する。

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。

②在日同胞の苦難に参与する教会として、神と同胞の前に立つていくことを自覚し、仕える者の使命を果たす。

③世代交代が進行していることを直視し、教会構成員が多様化していく現実を考慮し、在日同胞教会共同体の主体性を確立する。

④来る90周年に向けて自立した100教会が設立される。

⑤宣教90周年に向けて、3世代と4世代のための宣教的使命の重要性を認識し、これに適応することが出来る働き人を優先的に養成する。

⑥今後も継続して神の国を志向するエキュメニカル運動の隊列に世界教会と共に参与する。

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。

②在日同胞の苦難に参与する教会として、神と同胞の前に立つていくことを自覚し、仕える者の使命を果たす。

③世代交代が進行していることを直視し、教会構成員が多様化していく現実を考慮し、在日同胞教会共同体の主体性を確立する。

④来る90周年に向けて自立した100教会が設立される。

⑤宣教90周年に向けて、3世代と4世代のための宣教的使命の重要性を認識し、これに適応することが出来る働き人を優先的に養成する。

⑥今後も継続して神の国を志向するエキュメニカル運動の隊列に世界教会と共に参与する。

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。



宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。

②在日同胞の苦難に参与する教会として、神と同胞の前に立つていくことを自覚し、仕える者の使命を果たす。

③世代交代が進行していることを直視し、教会構成員が多様化していく現実を考慮し、在日同胞教会共同体の主体性を確立する。

④来る90周年に向けて自立した100教会が設立される。

⑤宣教90周年に向けて、3世代と4世代のための宣教的使命の重要性を認識し、これに適応することが出来る働き人を優先的に養成する。

⑥今後も継続して神の国を志向するエキュメニカル運動の隊列に世界教会と共に参与する。

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

①今日に至るまで、苦難と逆境の中で教会を形成・発展させて来た先達の信仰の伝統を貴重な歴史的遺産として継承・発展させていく。

②在日同胞の苦難に参与する教会として、神と同胞の前に立つていくことを自覚し、仕える者の使命を果たす。

③世代交代が進行していることを直視し、教会構成員が多様化していく現実を考慮し、在日同胞教会共同体の主体性を確立する。

④来る90周年に向けて自立した100教会が設立される。

⑤宣教90周年に向けて、3世代と4世代のための宣教的使命の重要性を認識し、これに適応することが出来る働き人を優先的に養成する。

⑥今後も継続して神の国を志向するエキュメニカル運動の隊列に世界教会と共に参与する。

宣教80周年期(1988年)の主題は、「我らに新しい力を給うイエス・キリスト」(イザヤ40:31)であった。宣教80周年記念大会は、約1000名が参加する中、大阪市中之島の中央公会堂で開催された。

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

宗教学科卒業・入学式挙行

総会新聞 記事募集

各 地 方 会 報 道 者 様 へ
各 地 方 会 報 道 者 様 へ
各 地 方 会 報 道 者 様 へ

fukuinshinbun@kccj.jp

東 会 第58回定期大会開催

「女性の健康と権利」テーマに一日研修会も



東 会 第58回定期大会開催

東 会 第58回定期大会開催

東 会 第58回定期大会開催

YMCA 在日同胞文化の創造と多文化共生社会を目指して
2006年4月25日、創立100周年を迎えました。

- ◆東京で一番安く便利な宿泊研修施設(ホテル)：フロントは日・韓・英語に対応、24時間サービス。10名様から220名様まで宿泊研修(50名様)も可能。
- ◆スペースワイホール：220席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに最適
- ◆韓国文化(チャング・カヤグム・舞踊)教室・韓国語講座・各種こどもクラス
- ◆YMCAアジア語学院(日本語学校)

(税込)	平日	休・休前日
シングル	¥6,300	¥5,040
ツイン	¥11,550	¥9,240
トリプル	¥14,490	¥11,592

朝食¥200
カルピック、コムタン、ユッケジャン、韓国定食、洋食(全メニューコーヒープリ)

在日本韓国YMCA
http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/

東京韓国YMCAアジア青少年センター
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
関西韓国YMCAアジア青少年センター
〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 TEL 06-6981-0781 FAX 06-6981-0782

南会 春の一日研修会開催

西女性 「心新たに、主に従う」主題に33名が参加



2月27日、西南地方教会 中央教会で開催された。女性連合会宣教師主催で、講師としてお呼びした津「春の一日研修会」が福岡 脇恵恵牧師は、「心新たに、主に従う」

れ、以前より、地方会、女性連合会の行事に積極的に参加されており、今回、良い機会が与えられ、本場に感謝である。

私たちの教会は先年宣教師100周年を、女性会が創立60周年を祝ったが、しかし、これからどちらに向かっているか、いまだ主を見て、主がなさろうとされる業を知ろう。私たちの歩みの原動力はキリストの愛である。イエスと共に古い自分は死に、復活のイエスと共に私たちも心新たに生きよう。

午後からは、三分団に分かれて、「講演の内容」「一歩踏み出す女性会になるに

な群れである。しかし、人数ではない。あのギデオン兵士のように、主は私たちに新しい世界を作ろうとされている。うろたえることはない。主はすばらしい計画をもって、その中に私たちを組み入れられている。どうか、御業が進められますように、主の民が、各教会が祝福されますように、と力強く述べられた。

小柄な、愛らしいお顔をされた先生ではあるが、その身体から出るパワーは甚大で、タンバリンを持っての賛美の指導、メッセージには、伝えたいという情熱が強く伝わりましたという参加者からの感想が出たほどであった。

一方、あまり民族性は出さない方がいいのではないかとという意見もあった。しかし、

「家庭伝道をどうすればいいか」「自分の教会について」などをテーマに語り合い、その後、発表の時間を持った。多様な教会の人間関係のむづかしさ、家庭伝道、後継者を育てることのむづかしさ、言語の問題、自分自身の現状など多く出たが、その問題を課題として、どのように対応してきたかという前向きな発言もたくさん出た。

かし日本の方にいわせると、韓国の教会は元気ということがある。また良い話し合いが出来た。力を得たという意見には、挨拶はかわしても、互いを語り合う機会が少なかったことを感じさせられた。これからはもっと腹を割って話し合え

初代教会宣教師遺跡地を 探訪

関西聖書神学院主催の グリス 等 訪問

2月23日(火) 午前、長老、勸士、執事等合計32名、使徒パウロの遺跡地、3次伝道の中心地、グリス(マケドニア)とバウの殉教地、ローマを中継地として、初代教会宣教師遺跡地を訪問した。初代教会宣教師遺跡地を訪問する目的は、初代教会宣教師の足跡をたどり、その精神を学ぶことにある。初代教会宣教師は、主イエスの福音を伝えるために、命を懸けて宣教した。彼らの足跡をたどることは、私たちの信仰を深め、宣教の心を燃立たせることである。

16時間 夜間、ローマの街を歩いた。ローマは、初代教会の中心地であり、パウロの宣教の舞台であった。ローマの街には、初代教会の足跡が数多く残っている。ローマの街を歩くと、初代教会の宣教の姿が目に浮かぶようだ。ローマの街には、初代教会の足跡が数多く残っている。ローマの街を歩くと、初代教会の宣教の姿が目に浮かぶようだ。



関東地方教会 春の一日研修会開催

「心新たに、主に従う」主題に33名が参加

2月27日、関東地方教会 中央教会で開催された。女性連合会宣教師主催で、講師としてお呼びした津「春の一日研修会」が福岡 脇恵恵牧師は、「心新たに、主に従う」

れ、以前より、地方会、女性連合会の行事に積極的に参加されており、今回、良い機会が与えられ、本場に感謝である。

私たちの教会は先年宣教師100周年を、女性会が創立60周年を祝ったが、しかし、これからどちらに向かっているか、いまだ主を見て、主がなさろうとされる業を知ろう。私たちの歩みの原動力はキリストの愛である。イエスと共に古い自分は死に、復活のイエスと共に私たちも心新たに生きよう。



関東地方教会諸職研修会 春の一日研修会 心新たに、主に従う 脇恵恵牧師

ハイチ・チリ大地震緊急募金追加分
ハイチ・チリ大地震緊急募金現況
*総会事務局到着順/2010年3月26日現在

教会	金額
黎明教会	1,000円
小倉教会	47,271円
神戸教会	100,000円
福岡中央教会	30,000円
東京聖山キリスト教会	50,000円
明石教会	5,000円
愛隣教会	30,000円
合計	263,271円
累積合計	3,108,995円



ハイチ・チリ大地震緊急募金追加分
ハイチ・チリ大地震緊急募金現況
*総会事務局到着順/2010年3月26日現在

ハイチ・チリ大地震緊急募金追加分
ハイチ・チリ大地震緊急募金現況
*総会事務局到着順/2010年3月26日現在

宣教師・神学生研修会開催

西南地方会の協力の下、23名が参加



毎年おこなわれている宣教師・総会神学生の集中講義に開催された。今回は宣教師・伝道師が6名、総会神学生が15名、神学校の教務(韓聖炫牧師)と洪性完総幹事の総勢23名の参加であった。

開会礼拝で「主のために」という題で西南地方会長の金聖孝牧師の励ましのメッセージを聞いた。

宣教師・伝道師が6名、総会神学生が15名、神学校の教務(韓聖炫牧師)と洪性完総幹事の総勢23名の参加であった。

開会礼拝で「主のために」という題で西南地方会長の金聖孝牧師の励ましのメッセージを聞いた。

「外国人住民基本法」とは、外国人住民とともにこの社会に生き、豊かな活力をつくり出していくとする私たちの決意のあらわれである。排外主義的な言動が強まりつつある今こそ、「外国人が暮らしやすい社会は、日本人にも暮らしやすい」という標語の意味を、ともに生き、生かす社会を目指すことを、私たちは一度、確認する。

パレスチナの小さなユダヤ人宗教共同体でしかなかった初代のキリスト教会が、他民族とともに生きることによって豊かな広がりを実りを得たように、私たちもまた、民族的・文化的な他者とともにこの社会を形成することで、豊かな未来を得られることを信じる。それは彼らを生かす道であるとともに、実は私たちをこそ生かす道なのである。この地に生きる「隣人」たちとともに生きることこそ、キリスト者の生である。そう確信し、私たちは共生への道を切りつつ進む。

<政府および関係諸機関への要求項目>

1. 政府と国会は、在日韓国・朝鮮人など旧植民地出身者とその子孫に対して、日本の歴史責任を明記し、民族的マイノリティとしての地位と権利を保障する人権基本法を制定すること。
2. 政府は、歴史の真の清算と和解に向けて、日朝国交正常化交渉を粘り強く進め、日朝国交の実現と「拉致問題」を解決すること。
3. 国会は、米国議会などの決議を誠実に受け止め、「戦時性的強制被害者問題解決促進法」「恒久平和調査局設置法」を速やかに制定すること。
4. 政府は、東アジアの和解と平和を実現し、ひいてはアジア全体や世界に対する不戦の誓いを実現するために「平和憲法」を具現化すること。
5. 政府と国会は、日本国憲法と国際人権条約に基づいて外国人住民の人権が侵害されないことがないように配慮し、その具体的なとりくみとして外国人住民の包括的な人権保障のための「外国人住民基本法」を制定すること。
6. 政府は、「IC在留カード」の常時携帯や「みなし再入国許可」などによる差別的な政策を改め、在日外国人の管理強化を目的とした09年改定法(12年実施)を再検討すること。
7. 政府は、難民申請者への居住権保証、非正規滞在者への在留資格付与を行なうこと。
8. 政府は入管法における外国人指紋・顔写真登録制度を中止すること。
9. 政府と国会は、国際人権諸条約の選択議定書(個人通報制度)を批准し、「人種差別撤廃法」を制定するとともに、政府行政機関から独立した「人権委員会」を創設すること。また「すべての移住労働者とその家族の権利保護条約」を速やかに批准すること。
10. 地方自治体は、在留資格の有無や違いにかかわらず、外国人住民の生活権を保障するとともに、外国人住民の住民自治・地方自治参画を積極的に推進すること。また、人種差別禁止条例、多民族・多文化教育指針を作成し、実施すること。

<私たちの取り組み>

1. 「外国人住民基本法」制定を求める署名運動をより一層推進する。
2. 入国時における指紋など生体情報の登録制度が日本・米国以外の国に波及することを懸念し、その阻止および中止を実現するために世界のキリスト教会と連帯し、情報の共有をはかる。
3. 教会内で声なき人の声を聞き取ることができるよう、また外キ協活動が宣教課題として認識・理解され協力が得られるよう、各地外キ連、諸教派・団体、神学校において学習会・研修会などの機会を拡げていく。そしてその際、日・韓・在日共同ブックレットを積極的に活用していく。
4. 「韓国併合」100年という歴史的地点にあることをふまえ、シンポジウムを7月初旬に開催し、日・韓・在日教会のこれからの協働のあり方を模索していく。また韓国教会「在日同胞苦難の現場訪問」を実施する。
5. 多文化・多民族共生を目指す具体的な取り組みとして、「移民の神学」の共同研究プロジェクトをすすめる。また今年も第3回キリスト者青年現場研修プログラムを実施する。

第11回 女性聖書セミナー開催

全国教会女性連合会主催で

全国教会女性連合会が主催する第11回女性の聖書セミナーが、2月18日・19日、東京教会にて開催された。主題を「十字架と女性」とし、講師に金必順牧師(女性会総務)を迎え、その日は関東一円大雪というあいにくの天候にもかかわらず、各地方会から120名を超える女性信徒たちが集まった。開会礼拝は新井由貴牧師が「ルツが信じ従った神さま」という題のもと、旧約聖書のルツ記を通して世代間を超えて働いた神の偉大な導きについて自分の経験と重ね合わせながら語られた。このメッセージは、会の始まりにふさわしく私たちが勇気づけられるものであった。

その後、金必順牧師による基調講演「私の十字架物語」では、シンボル化された十字架ではなく、イエス・キリストが背負った十字架について、本当の十字架とは何なのかという投げかけがなされ、その後の分団では「私たちの十字架物語」というテーマで、それぞれの思いを分かち合う機会が与えられた。

つづく講演Ⅰ「イエスに出会った女性」では、さらに具体的に十字架の下にいた女性たちや、イエスの墓を見守る女性たちを、聖書の中から拾い集めてみると、どの女性も社会的に弱い立場の女性たちであったことが示された。悲劇の頂点に立たされていたからこそ、痛みを共感することができ、そしてそこに神様の

の確かな選びと導きがあるというものであった。

最後の講演Ⅱ「十字架、その後の女性」では、復活のイエスに出会った女性に焦点を当てながら、十字架の下に留まらないうちに、そこから生まれ変わるスタートすることがゆるさされて、イエス・キリスト自ら私たちに近づいて招いて下さるという、明日を生きて私たちに希望とほげましが与えられたメッセージであった。

会の中では事前に準備してきたMC(司会)「自分の十字架」を紹介しながら、それにまつわる思い出を共有し合うという素敵な時間もあった。

晩祷では威美羅副書記がコロサイ信徒への手紙3章の後、東京駅

第24回「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者1・30集会宣言

2010年1月28～30日、「外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会」(外キ協)は、第24回全国協議会を、大阪・生野の在日韓国基督教教会館(KCC)にて開催し、「韓国併合から100年／多民族・多文化社会の宣教課題」という主題のもと、韓国基督教教会協議会、韓国教会在日同胞人権宣教協議会、各地外キ連および外キ協加盟各教派・団体の代表者39名が参加した。協議会では、09年の改定法(入管法・入管特例法・住民基本台帳法の改悪)に関する分析と批判を共有し、新政権に対して「外国人住民基本法」制定を働きかけていくことの重要性を再確認するとともに、10年が「韓国併合」から100年を迎える年であることをふまえ、キリスト者としてこの世にどのように働きかけていくべきかについて真摯な論議がかわされた。そして今日30日、大阪カテドラル聖マリア大聖堂において、「多民族共生社会を地域から」の主題のもと、「第24回「外国人住民基本法」の制定を求める全国キリスト者1・30集会」を開催した。

今、日本社会は大きな変化を迎えている。グローバル化という世界的潮流の中で、経済的貧困や政治的抑圧から逃れるために国境を越えて日本に移住する人たちが増えている。ここ20年間で外国人登録者数が100万人から220万人に増えている。のみならず、外国籍住民の多国籍化と定住化の傾向はますます強まっている。このような大きな変化に直面し、日本社会は好むと好まざるにかかわらず対応を迫られている。

政府は、戦後間もない1947年に始まり60年以上続いた外国人登録制度を全面的に改定して、「外国人管理」をさらに徹底しようとしている。外国人登録制度とは、外国人という存在そのものを「危険」とみなす発想に基づくものである。2007年度から開始された入国・再入国時における顔写真・指紋情報登録制度に引き続いて、09年には新たな在留管理制度の導入がなされ、7月には十分な議論もなされぬまま、与野党の水面下における合意によって、関連法の改正案が国会を通過した。

これにより、特別永住者に対する常時携帯義務を除くほかすべての管理・監視体制が温存される一方、外国人を特別永住者／中長期在留者／非正規滞在者に分類し、このうち非正規滞在者を社会的に抹殺するという意味で、非人権性をさらに強めた制度が、実施に向けて動き出している。

その一方で、民主党新政権の発足により、永住外国人への地方参政権が実現のさざしをみせている。しかし、このような地方参政権法案を推進していく流れの中にも、植民地支配という過去の歴史をあからさまに肯定し、「朝鮮」籍者などの特定層を排除しようとする制限論がはびこっている。

さらに市民レベルの一部では、昨今のナショナリズムと排外主義の高まりにより、外国人住民に対する差別的意識が強まっている。日本経済は世界的な金融恐慌の影響により不況にあえいでいる。その結果、派遣切りや雇止めなど最低限の保障も受けられない雇用状況のもとで働かざるをえない人々や出口の見えない閉塞感を抱きながら生きているが、そのやり場のない怒りと攻撃性が、立ち向かうべき目標を変えて、隣人である外国人に向けて発散されてしまっている。

私たちの目指すものは、分断と統治を前提とする抑圧的な支配体制ではない。また、弱いものいじめというおぞましい怨嗟の声ではない。「韓国併合」100年を迎えるこの時点にあって、私たちは日本がかつて他国を侵略し、植民地として踏みにじり続けていた歴史的事実をふりかえる。そしてだからこそ、植民地主義的な支配や意識のあり方が、今、あたらしい再編されつつあることを強く憂慮し、また断固としてそれを拒否するものである。

私たちが求めていることは、外国人を日本社会の住民と認め、その権利を保障し、アイデンティティの多様性を認めることである。それはすなわち、外国人住民をともに生きる主体として、すなわち地域社会をともにつくりあげていく存在として認めていくことである。

住民としての権利である以上、そこに国籍や在留資格の制限を加える必要はない。どの国籍を持とうが、どのような在留資格であろうが、そこに住む住民の意思と権利は保障されなければならない。